ハラルロジスティクスと安心・安全の保護

Halal Logistics and Halal Integrity Protection

Yusrizal Sufardi Bin Mohd Yunan
(Politeknik Tuanku Syed Sirajuddin)

Mohd Helmi Bin Ali
(Universiti Kebangsaan Malaysia)

Ummu Ajirah Binti Abdul Rauf
(Universiti Kebangsaan Malaysia)

（日本語訳：髙野倉雅人）

1. はじめに

ハラル製品やハラルサービスは、シャリア法にもとづいて生産されて、消費者に使用される。ムスリム消費者は、それらの製品やサービスを購入して使用することが許される。反対に、シャリア法にもとづかない製品やサービスは、ハラム（禁止）に分類される。ハラムに分類される製品やサービスは、シャリア法に違反するため、ムスリム消費者が、それらを購入したり使用したりすることはない。さらに、ハラル製品やハラルサービスは、トッユイバン（健全）にも分類される。トッユイバンとは、シャリア法にもとづいており、製品やサービスの品質が良く、清潔で、純粋で、安全であると定義される。以上のように、シャリア法により認められた高い品質を持ち、清潔で純粋で安全なものが、ハラル製品やハラルサービスと定義されている。

ムスリム消費者で構成するコミュニティのニーズを満たすように、ハラル製品やハラルサービスを生産する必要がある。ハラル製品やハラルサービスに対するムスリム消費者の要望は、幅が広く、様ざまな製品・サービスのカテゴリを含む。一般的に世界的にみると、食品・飲料、化粧品、医薬品、消費財、ロジスティクス、屠畜場、医療機器の７カテゴリが存在する。ある製品やサービスのハラル認証は、それぞれの国のハラル認証団体（HCB）によって監督されている。マレーシアでは、政府機関であるJAKIM（イスラム開発庁）が担当している。日本の認証団体としては、日本ムスリム協会（JMA）、日本ハラール協会（JHA）、日本イスラーム文化センター（JIT）、ムスリム・プロフェッショナル・ジャパン協会（MPJA）、日本アジアハラール協会（NAHA）、ジャパン・ハラール・ファンデーション（JHF）がある。

ハラル認証団体の存在により、ハラル製品やハラルサービスの安心・安全の維持や保護が実現されており、その安心・安全が、消費者へ提供される製品やサービスの価値を高めている。その文脈から、正直さや表裏の無いこと、完全さの状態の意味を持つ言葉として、安心・安全（Integrity）を使用する。つまり安心・安全とは、製品の価値が完全で、消費者に対する契約の遵守を保証することである。消費者は、安心・安全が保たれるように、生産者がハラル製品を生産することを期待している。そのため、消費者が購入するハラル製品の価値や品質は、製品パッケージや広告に記載された情報と一致する必要がある。

そのようなハラル製品の価値は、様ざま視点やカテゴリで保障されている。企業によるセールスアピール（販売訴求）は、異なる視点から行われている。例えば製品品質をアピールする場合の味・重量・清潔さ・賞味期限などである。製品価値の保証は、同時に、その生産に利用される方法にも依存する。その例として、その地域の素材を使用しているか、最新の機器を使っているか、廃棄物管理の手順に従っているか、GMP（Good Manufacturing Practice）やHACCP（Hazard Analysis Critical Control Point）のような品質保証システムを利用しているかがある。

さらに、社会的な視点が、セールスアピールに影響する。社会的に重要な価値を守ることが、環境や人道の観点から必要であり、またグリーン技術を使った生産や児童労働や犯罪の防止など、現在の社会の価値観に対して誠実であることも重要である。ハラル製品の文脈から、その製品が安心・安全であるとは、原材料から消費に至るまで、ハラルの価値が守られていることを意味する。

そのため、製品の安心・安全は、生産者から消費者に向けて約束された価値を保証する意味を持つ。産業界での適切な実施によって、製品の安心・安全が守られ、維持されなければならない。その安心・安全を守れないと、消費者へ提供する価値を傷つける。ハラル製品にとっては、ハラルの価値に対する正直さが、その製品にとって重要な安心・安全となる。ハラルの安心・安全を守れな

い製品は、ハラルの視点から、そのステータスを失うことになる。

2. ハラルの安心・安全

ハラルの安心・安全に対する３つの定義を紹介する。第１の定義は、原材料の使用から消費者による購入や利用の時点まで、食品が持つハラルの価値を損なわないことである。第２の定義は、購入時に安全であること、品質を保つこと、原材料から消費者の手に届くまでのすべての段階において適切に対処していることなど、ハラルの状況を保証することである。第３の定義は、ハラルの状況に疑念を持たれないことである。これら３つの定義をまとめると、ハラルの安心・安全は、疑念を持たれない状況、または製品のハラルとしての価値、その価値を保つための適切な努力により、ハラムとなる要因を防ぐことである。

ハラルの安心・安全を守る活動は、原材料から消費者の手に届くまでの、ハラル製品の生産者の努力と関係している。例えば、ハラル製品のサプライチェーンにおいて、ハラルに準拠した配送や倉庫を含む、ハラルロジスティクスの利用を通じて、ハラルの価値を守る企業活動などである。その企業活動は、原材料の段階から始まっており、ハラル認証を受けたサプライヤから原材料を調達する必要がある。ハラル製品を生産する企業は、有効なハラル認証を取得しているパートナーから原材料を購入する明確な責任がある。このアプローチを通じて、原材料を利用するときのハラルの安心・安全が守られ、維持される。

ハラルの安心・安全を守る活動は、原材料の段階だけに必要なのではない。清潔さの問題は、ハラルの安心・安全を守る重要な要素である。例えば、トッユイバンのコンセプトと関係して、シャリアの原理に準拠した正直で正確なラベリングや生産プロセスの利用、製品の安全の視点からは、関連する標準的な製造マニュアルに従うことがある。なぜなら、ハラル製品の生産からマーケティングに至るまで、すべてにおいて正直であることが、ハラルの価値だからである。良好な製造とマーケティングの実施は、ハラルの安心・安全を遵守するマネジメントの実現を支援する。

ハラルの安心・安全を守る活動は、マレーシアでのハラル認証において中心的な考え方である。食品製造に関するマレーシア規格 MS 1500: 2019 Halal food - General requirements（Third revision）のように、ハラル製品を生産するときの標準的な手順書・マニュアルに、企業がハラル認証を利用して経営する際に守るべき事項が規定されている。ハラルロジスティクスにおいても、同様の遵守事項が、MS 2400-1: 2019（Transportation）と MS 2400-2: 2019（Warehousing）に規定されている。ハラルの安心・安全を守る活動は、マレーシアでハラル製品の生産者により定められたハラルポリシーで強調されており、ハラル保証システム（Halal Assurance System: HAS）の一部となっている。

ハラルの安心・安全は、企業にとっても経営上の重要な課題である。これまでハラルの安心・安全に関する不十分な扱いにより、様ざまな企業が経営上の課題に直面した事例がある。ハラルの安心・安全の実現を妨げるような企業経営は、ハラル食品産業におけるスキャンダルとなり、信仰上の信頼を損ない、グローバルなハラル産業のサステナビリティや開発においてネガティブな影響を及ぼした。スキャンダルが繰り返されると、ハラル製品の安心・安全に対する消費者の信頼が損なわれ、ムスリム消費者が疑念を持たずにハラル製品を利用できなくなってしまう。ハラルに関係したスキャンダルは、世界規模かつ様ざまな製品や国で起きている。ハラルの安心・安全に影響する問題は、ハラル製品の生産、トッユイバン、貿易上のコンプライアンスの３つの視点から捉えることができる。

表１　ハラルに関係したスキャンダルの事例（2000-2021）

年	国	事例	生産	トッユイバン	貿易
2000	メキシコ	ソーセージとバーガーにブタ成分が含まれることを公表せず	X		
2005	イタリア	馬肉ソーセージにブタ肉が混入	X		
2011	マレーシア	食品にアルコール成分が混入	X		
2013	南アフリカ	ソーセージとビーフバーガーにブタ肉が混入	X		
2013	イギリス	パン菓子とミートパイにブタ DNA が混入	X		
2013	イギリス	冷凍ラムバーガーにブタ DNA が混入	X		
2013	イギリス	医療用ワクチンにブタゼラチンが混入	X		
2013	アメリカ	チキンサンドイッチでハラルに関するラベリングの誤り			X
2013	中国	自家製の食品でハラルに関するラベリングの誤り			X
2013'	マレーシア	清潔でないパン工場		X	
2014	EU	ブタ肉が混入したチキンソーセージのラベリングの誤り			X
2014	マレーシア	ブタ DNA が混入したハラルチョコレートが市場で流通	X		
2015	イギリス	ハラルの手順に従っていない屠畜場での処理	X		
2015	マレーシア	ケーキ商品の清潔さ		X	
2015	イタリア	チキンソーセージにブタ DNA が混入	X		
2016	スペイン	キャンディーにブタ DNA が混入	X		
2017	マレーシア	ヤギ肉とブタ肉が同じコンテナに混在	X		
2018	マレーシア	ハラル認証を取得していない原材料の使用	X		
2019	マレーシア	水産品の清潔さ		X	
2019	マレーシア	偽のハラルロゴの使用			X
2021	マレーシア	清潔でない生産センター		X	

ハラルに関連したスキャンダルの事例を表１に示す。先ほど紹介した３つの視点は、ハラルの安心・安全におけるリスクに直接的に関係している。例えば、ハラル食品の準備段階において、非ハラル成分が使用される状況が、コンプライアンスの問題となる。安心・安全に影響する非ハラル成分としては、ブタやイヌ、アルコールに由来する原材料がある。非ハラル成分を使用することによって、ハラルの安心・安全が損なわれる問題は非常に重要であり、生産した製品がハラムとしてみなされることになる。非ハラル成分の使用による安心・安全の問題は、Malaysian Halal Management System（MHMS）によって定められた基準に反する問題を引き起こす。ムスリム消費者が、ハラムとみなされた製品を購入することはない。

次に、トッユイバンは、生産地やクリーンでない生産のような清潔さの問題である。トッユイバンの視点からのハラルの安心・安全の問題は、必ずしも非ハラル成分の使用に限らない。トッユイバンは、消費または使用する際の品質・清潔さ・安全の考え方である。この定義は、消費における品質・清潔さ・安全の問題が、ハラルの安心・安全の一部であることを示している。一方、貿易における不正行為として、JAKIM によって認証されていないハラルロゴを使用することが問題となる。ハラルの安心・安全は、ハラルサプライチェーンにおけるすべての活動に影響している。原材料から始まり、生産、ロジスティクス、また消費者が購入する前の小売の段階まで、ハラルの安

心・安全を実現するために、非ハラル成分の混入や、ハラルの価値を損なう活動から守られなければならない。

同時に、ハラルの安心・安全を守るためのセーフティーネットワークの頑健さも、慎重に調べる必要がある。その活動を実施する企業において、ハラルの安心・安全を守るために最善と考えられる方法で実施されなければならない。ハラルロジスティクスの使用は、安心・安全を実現する最善の対策の一つである。サプライチェーン全体において、ハラルの安心・安全を脅かす潜在的な脅威があるため、単に生産の段階で、ハラルの安心・安全を守る活動を実施するだけでは不十分である。原材料から、生産、配送、倉庫、小売りまで、ハラルサプライチェーンのすべての段階において、それらの脅威が存在している。

もしサプライチェーンの活動に関わるすべての組織が、市場におけるハラル製品の配送や貯蔵を管理するハラルロジスティクスを利用するならば、ハラルの安心・安全を実現する事例となりうる。なぜなら、ハラルトラックを使って配送されるハラル製品は、ブタ DNA のような非ハラル成分の混入を防ぐ仕組みが設けられている。純粋で清潔であるトッユイバンの考え方は、配送や貯蔵から、消費者によって購入されるまでのすべてのプロセスに適用できる。JAKIM から認証を得ていないハラルロゴを使用する問題も、回避できる。トラックやコンテナ、倉庫などのロジスティクスを請け負う企業は、有効なハラル認証を取得せずに未認証のハラルロゴを使って消費者を欺くような企業に、ロジスティクスサービスを提供しない。この例は、ハラル製品の配送にハラルトラックを使うことを明記したハラルロジスティクス標準マニュアルと同様の対応である。

ハラルロジスティクスの使用は、サプライチェーンの活動において、品質を保持して、ハラル製品の安心・安全を守るために重要である。非ハラル成分が含まれないハラル製品であることを保証するハラルロジスティクスの要求事項と、同様に考えることができる。ハラルロジスティクスは、集荷・配送・貯蔵、および商品・動物・製品や半製品の取り扱いを管理するプロセスと定義される。食品かそれ以外かにかかわらず、シャリアの考え方に従うように、組織やサプライチェーンにおける情報や文書と同様に、ハラルロジスティクスは扱われなければならない。この定義から、ハラルロジスティクスが、サプライチェーンのすべてのプロセスにおいて実施されるべき活動であることがわかる。そのため、品質やハラルの安心・安全の守る活動は、原材料の配送や貯蔵に始まり、消費者によって購入されるまでのハラルロジスティクスによって実現されている。

結果として、ハラルロジスティクスが、ハラル製品の安心・安全、純粋さ、また品質を守る活動をサポートしている。ハラルロジスティクスのゴールは、生産の段階から消費マーケットに届くまで、ハラルの安心・安全を守ることにある（Tieman, 2011）。ハラルロジスティクスの適用は、サプライチェーンの活動全般で非ハラル成分が混入する問題、特に製造プラントの外部で混入するリスクを避ける解決策となる。さらに、偽のロゴや認証されていないロゴを使用する問題もある。それらの問題を避ける対策は、JAKIM による認証を得ていない製品を、ローカルなハラルマーケットに展開しないことで実現される。ハラルロジスティクスの存在は、サプライチェーン活動の全般において、非ハラル成分の混入を防ぐ有効な解決策と考えられる。

3. ハラルロジスティクスとハラルの安心・安全の保護

ハラルロジスティクスを利用したサプライチェーン全体の活動を通じて、ハラル製品の生産者による継続的な努力によって、ハラルの安心・安全が実現されている。ハラルロジスティクスとは、ハラル産業におけるハラルサービスの一つで、シャリアの原理に従った配送・倉庫サービスのこと

である。例えば、マレーシアのJAKIMのようなハラル認証機関から認証を得たロジスティクスサービス企業によって、ハラルロジスティクスが運営されている。そのような、ハラルロジスティクスを必要とするハラル製品の生産者に、シャリアの原理に従った配送や倉庫を運用できるよう、ロジスティクスサービスが提供されている。マレーシアにおいては、ハラルに関する配送サービスと倉庫サービスの２つの標準手順マニュアル―MS 2400-1: 2019 Halal Chain Management System Part 1 - General Requirements（Transportation）、および、MS 2400-2: 2019 Halal Chain Management System Part 1 - General Requirements（Warehousing）―にもとづき運用されている。

ハラルロジスティクスは、一般的なロジスティクスサービスとは異なるアプローチから、その活動を行っている。そのため、ハラルロジスティクスサービスを利用するセグメントも、一般的なロジスティクスのセグメントとは異なっている。ハラルロジスティクスは、より良いサービスを提供できるよう努力しているロジスティクスサプライヤにより実現される革新的なサービスである。ハラルロジスティクスの運用は、ハラル配送とハラル倉庫の２つのカテゴリに分けられる。ハラルロジスティクスは、原材料に始まり、消費者の手に届くまで、シャリアに従ったロジスティクス活動である。また、ハラル製品が消費者に届くまで、生産プロセスにおける製品の配送や原材料の保管において、ハラルの安心・安全が守られる恩恵をユーザにもたらす。サプライチェーン全体を通じたすべてのハラルロジスティクス活動は、シャリアの考え方に従うように、またハラル製品のみに適用されるようにデザインされている。図１に、原材料から消費者まで、サプライチェーン全体の活動に適用されるハラルロジスティクスの役割を示す。

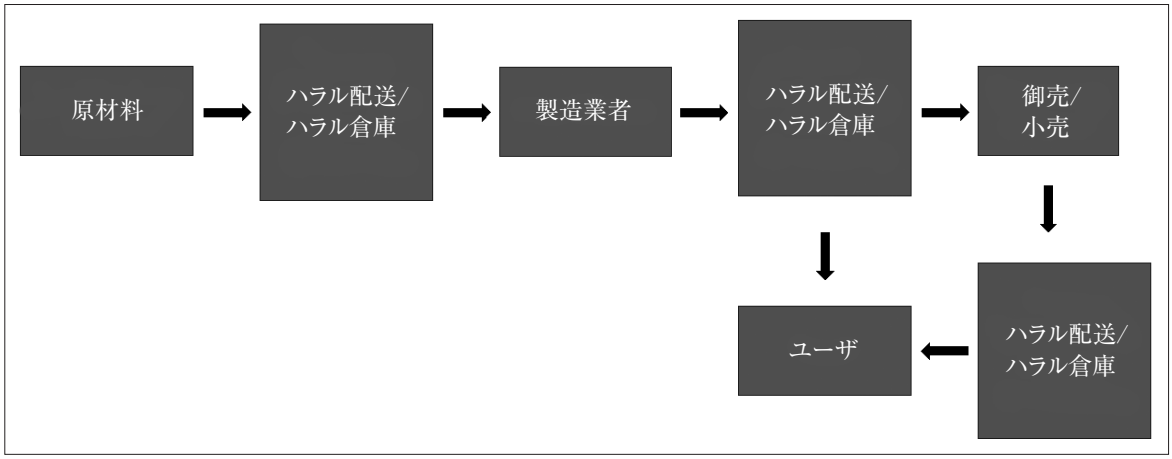

図１　ハラルロジスティクス活動のフローチャート

ハラル製品のみを管理するハラルロジスティクスの特徴が、ハラルの安心・安全を守る活動を可能にしている。ハラルの安心・安全を守る価値は、製品の品質や安全、非ハラル製品と混在するリスクを避けるなど、様々な場面・状況でみられる。ハラルロジスティクスの運用をデザインすることは、ハラルの安心・安全を守る活動のみならず、サービスの質や、配送および倉庫に保管される製品の品質を維持することを意味する。このような活動は、ハラルの安心・安全を守る活動を実現するハラル配送・倉庫サービスのための標準的な手順書・マニュアルに見られる。ハラルロジスティクスの利用により、サプライチェーンにおけるハラルの安心・安全を守る活動を効果的にサポートでき、また、ハラルの安心・安全を損なうような事例も、その問題が発生する前に、効率的に防ぐことができる。

ハラルの安心・安全を守る活動において、ハラルロジスティクスが重要であることを示したいく

つかの事例がある。2013年にイギリスで、冷凍ラムバーガーにブタDNAが含まれていたことが発表された。この事例では、市場にある冷凍ラムバーガーを現地当局が調査した際に、ブタDNAが含まれていたと発表されたが、二次調査ではブタDNAは見つからなかった。この差異は、一次調査と二次調査でのサンプリング方法の違いが原因であった。一次調査では、市場で販売されている冷凍ラムバーガーをサンプリングしたのに対し、二次調査では生産現場からのサンプリングであった。

その後、イギリスの現地当局は、冷凍ラムバーガーへのブタDNAは、生産現場の外部からの混入であったと結論付けた。この事例は、冷凍ラムバーガーが生産される施設から消費者に購入されるまで、サプライチェーン活動の中で、非ハラル成分の混入が起きる可能性があることと、ハラルロジスティクスが十分でなかったことを示している。ハラル配送やハラル倉庫のサービスがあれば、ブタ由来の非ハラル成分を含む製品が配送されたり保管されたりするリスクを避けることができ、冷凍ラムバーガーに対するハラルの安心・安全が保たれる。

同様の事例は、マレーシアでも起きている。2014年にマレーシアで、市場のハラル製品にブタDNAが混入していることが発表された。この発表はマレーシアのハラル市場に衝撃を与え、関連する商品ブランドに対して消費者のネガティブな反応を引き起こした。この事例に対する2つの政府機関の調査で、異なる結果が得られた。その差異は、検査方法の違いが原因であった。1つの政府機関は、ハラル市場からサンプリングした製品を調査したところ、ブタDNAの混入を発見した。

しかしながら、別の政府機関が再び調査したところ、生産現場からのサンプルには、ブタDNAが見つからなかった。この調査結果の違いは、ハラル製品にブタDNAが混入する可能性は、工場などでの生産過程だけではないことを示している。市場サンプルにブタDNAが含まれていたことは、ハラル配送やハラル倉庫を使用しないロジスティクスの段階で、混在が起きていたことを意味している。もし生産者がシャリアの考え方に従わないロジスティクスサービスを利用すると、非ハラル成分が混入する可能性がある。ハラル製品を非ハラル製品と同じ方法で配送したり倉庫で保管したりすると、この問題が発生するが、生産現場から消費者までのサプライチェーン全体においてハラルロジスティクスを利用すれば、この問題を防ぐことができる。ハラルロジスティクスを利用することで、ハラルの安心・安全が守られる。マレーシアの事例は、イギリスで発生した2013年の事例と類似しており、非ハラル成分の混入は、生産の段階だけでなく、市場に商品が流通する段階で発生することを示唆している。

他にも、2017年にスペインから輸入された冷凍ブタ肉とハラル冷凍ラム肉が、マレーシアの港にて同じコンテナに混在していた事例がある。この事例では、輸入されたハラル冷凍ラム肉が、冷凍ブタ肉と同じコンテナに貯蔵された管理上の誤りが着目された。もしハラル冷凍ラム肉を輸入する企業が、ハラルロジスティクスサービスを利用していれば、この誤りを避けることができた。ハラルロジスティクスを利用することで、1つのコンテナにハラル冷凍ラム肉とブタ肉が混在するようなリスクを避けられる。もし混在する食肉が港に到着する前にハラルロジスティクスを利用していれば、このような事態を回避できる。同じコンテナにハラル冷凍ラム肉と非ハラル製品を混在させない対策を取ることにより、ハラル製品の安心・安全が守られる。

生産段階での混在の他の事例として、ハラル市場に安心・安全が守られたハラル製品のみを流通させることを、ハラルロジスティクスが可能にする重要な役割を持つことが挙げられる。ハラルロジスティクスの利用によって、生産段階で混在したり、生産現場の外部で安心・安全が脅かされたりするような事態を避けることができ、消費者の手に届く前の段階で問題を解決できる。このように、ハラルロジスティクスの利用が、直接的・間接的にかかわらず、ハラル製品を生産する企業が

得られる利点として、広く受け入れられている。

4. 安心・安全を保護するハラルロジスティクスの利点

一般的に、ハラル製品を生産する企業によるハラルロジスティクスの利用は、ハラル製品の安心・安全を保護する目的がある。ハラルロジスティクスを利用した安心・安全を守るための努力は、ハラル製品を生産する企業にとって、いくつかの利点がある。第１の利点は消費者によるクレームや、ハラル製品をつくる企業に対する不満のようなリスクを低減できることにある。禁止されている成分を含む混入が起きると、ハラルの安心・安全の取り組みに対する消費者の信頼を失墜させて、企業に対する不満を増大させることになる。このように、ハラルロジスティクスの利用によって、生産現場の外部での混入のリスクを効果的に減らすことができ、混入から生じるダメージが消費者に伝わる前に防ぐことができる。

第２の利点としては、地域の認証団体によるハラル認証基準の監査を満たすようなハラルロジスティクスを構築できることである。ハラルロジスティクスの利用により、非ハラル成分の混入をさけることができ、安心・安全を実現する良い実践例となりえる。ハラル製品を生産する企業にとっては、ハラル認証を満たすような取り組みを実践するサポートとなる。ハラル認証基準の監査により、生産プロセス全体を通して、各製品に対するハラルの安心・安全を実現できる。第３の利点としては、ハラルの実践に関係した継続的な改善活動である。ハラルロジスティクスを通じて、生産者は安心・安全に関わる課題を効果的に管理でき、継続的な改善活動を容易に実践できる。ハラルの安心・安全は、ハラルをより良く実践するための主要な課題である。

第４の利点としては、企業イメージの向上がある。ハラルロジスティクスを利用してハラルの安心・安全を守る企業の取り組みは、優れた実践事例と考えられ、良好で質の高いハラルを実践する企業として認識される。この企業努力により、間接的に、顧客や消費者のニーズを満たす企業イメージが創られる。

第５の利点は、顧客満足である。ハラル製品を生産する企業が、ハラルロジスティクスを利用して安心・安全を守ろうとする努力により、顧客満足度が高まる。そのような努力により、ハラルの安心・安全が守られ、ハラルの価値を持つ製品を顧客が利用できることで、企業の信頼が高まり、ハラル製品に対する顧客ロイヤリティも向上する。また顧客ロイヤリティが高まることで、消費者はハラル製品を継続的に購入するようになり、ハラル製品を生産する企業の業績も向上する。

さらに、ハラルの安心・安全を守るようにハラルロジスティクスを利用するよう努めることで、ハラル製品を生産する企業の競争力を高められる。競争力の向上は、ハラル製品を生産する企業の市場規模を拡大して、ハラル製品の市場シェアを高められる。ハラルロジスティクスを利用して安心・安全を守ろうと努力する企業は、直接的に、３つの異なるコンテクストから利益を得られるようになる。第１のコンテクストは、ハラル製品の価値の真正さを守ることの保証である。ハラルロジスティクスの利用は、ハラル製品を生産する企業に、その製品の安心・安全を実現する助けとなる。サプライチェーン全体の活動において、消費者に対する、品質や健全さ、ハラルの価値の真正さが保証される。

第２のコンテクストは、サステナブルなハラルを実践する活動のマネジメントに関係する。ハラルロジスティクスの利用を通じて、ハラル製品を生産する企業は、サプライチェーン全体において、最良の活動を実践できるようになる。具体的には、故意や不注意により、非ハラル成分を含むような原材料を使うサプライヤと取引するリスクを、回避できる。購入した原材料が非ハラルであ

ると、サプライヤから、その原材料を配送することはできない。なぜなら、ハラルロジスティクス企業は、原材料がハラルであり、有効なハラル文書が添えられていることを、事前に検査するからである。結果として、ハラル製品を生産する企業から納品されるようになり、非ハラルな原材料を受け取るリスクを避けることができる。

第3のコンテクストは、商業的な効果である。ハラルの安心・安全を守るハラルロジスティクスを利用することで、ハラル製品を生産する企業に良い影響をもたらす。企業イメージや顧客満足、信頼、ロイヤリティが向上することで、ハラル製品を生産する企業の活動にポシティブな影響を与え、直接的には、ハラル製品の市場シェアが拡大することで、その企業の利益が増加する。ハラルの安心・安全を守るためにハラルロジスティクスを利用する企業は、利益だけを追求するのではなく、包括的で効果的にハラルマネジメントを実践する企業として認識されるようになる。

5. まとめ

ハラルロジスティクスの利用は、サプライチェーン全体の活動においてハラルの安心・安全を守る企業の経営努力に必須の要素である。ハラルロジスティクスを利用することで、ハラル製品を生産する企業は、原材料を購入してから消費者の手に届くまでのすべての段階において、ハラルの安心・安全を守る活動を実践できる。3章で述べたように、ハラルを実践する取り組みが生産段階だけで行われていたことが、ハラルの安心・安全が脅かされた事例が発生した原因であった。イギリスやマレーシアの事例からは、ハラルロジスティクスを利用することで、市場で非ハラル成分がハラル製品に混入する問題を回避できることを示している。同様に、生産の段階で非ハラル成分が混入した多くの事例でも、ハラルロジスティクスが利用されていれば、問題のある製品が市場で販売される前に防ぐことができたことを示している。

ハラル製品を生産する企業は、ハラルの安心・安全に関係する経営上の課題として、ハラルロジスティクスが重要であることに、高いレベルの注意を払う必要がある。ハラルロジスティクスを利用することで、その企業がハラル製品を生産するときに注意すべきレベルを容易に決めることができる。また、ハラル配送やハラル倉庫を使用する利点についても、その企業は十分な情報と関心を持っている。ハラルロジスティクスを利用する企業は、サプライチェーン全体を通して、包括的なハラル活動を実践する事業体と認識される。一方、従来のロジスティクスを利用する企業は、地元当局やハラルロジスティクスを提供する企業に対して、十分な説明を継続的に行わなければならない。

ハラルの安心・安全を守る活動は、一時的な活動でなく、また生産段階だけを対象にしたものでもない。ハラルの安心・安全を守った活動をより効果的に実践するために、ハラルサプライチェーンに関係するすべての事業体が、それぞれの役割を果たす必要がある。ハラルロジスティクスを提供する企業は、ハラル製品を生産する企業や地元当局と手を取り合って、ハラルロジスティクスを実現できるよう協働して事業を行う必要がある。すべての関係者の協働を通じて、ハラル・エコシステムを実現する活動が実行され、より効果的で持続的なハラルの安心・安全を守る活動が実践される。